

前号既報の通り、天理大学ラグビー部は「関西大学Aリーグ」で準優勝し、13日に開幕した「全国大学ラグビーチーム選手権大会」セカンドステージに臨んでいる。

同日、近鉄花園ラグビー場で行われた第1戦に出場した天理大は、同大会で通算15回の優勝を誇る早稲田大学に14・10で勝利。伝統校

を相手に、公式戦初勝利となる記念すべき1勝を挙げた(写真)。

午後2時、4千700人のラグビーファンが詰めかけるなか、天理ボールでキックオフ。

開始早々、早稲田大のノックオンで、この日最初のスクランブルを組む。早稲田大

90・875%とかなり軽いものの、天理大がスクランブルで押し勝つと、場内から歓声が上がった。

前半7分、天理高校第2部出身の金丸勇人選手(3年)がトップスピードのま

まバスを受けると、縦に大

天理大ラグビー部

がトライ。キックも決まり、7・0と先制した。

その後、両校ともゴール前まで攻め込む場面をつくながら日本代表に選ばれている早稲田大の藤田慶和選手(4年)に

残り時間20秒、天理大はセンターライン付近でのラントライ奪取。すぐさまモールを組む

インアウトをしつかりギブ。すぐさまモールを組む

「相手の主力選手に仕事をさせず、モールを組ませないよう粘り強くティフエン

われると、と、スタンダードからはカウンタダウンにも似た鬨の声が

上昇する。最後は天理大の選手がボールをピッチの外へ蹴り出し、ノーサイド(試合終了)となつた。

後半5分、天理大がアタックを続けながら左へ展開し、敵陣10メートル付近でバスを

天理 スボーツ

天理大は20日、第2戦で東京・秩父宮ラグビー場で

東海大学と、27日の第3戦で名古屋市のパロマ瑞穂ラグビー場で朝日大学と対戦する。



早稲田に記念すべき勝利

早稲田大相手の勝利は、関西勢として16季ぶり。天理大としては、同大会3戦目にして初となった。東口剛士キャプテン(4年)は「関西リーグ最終節で同志社大学に負けた悔しさが、この試合の勝利につながった。伝統ある大学とのもの、互いに好守でトライを阻み、天理大リードでした。

その後、両校ともゴール前まで攻め込む場面をつくながら日本代表に選ばれている早稲田大の藤田慶和選手(4年)に残り時間20秒、天理大はセンターライン付近でのラントライ奪取。すぐさまモールを組むインアウトをしつかりギブ。すぐさまモールを組む「相手の主力選手に仕事をさせず、モールを組ませないよう粘り強くティフエンわれると、と、スタンダードからはカウンタダウンにも似た鬨の声が上昇する。最後は天理大の選手がボールをピッチの外へ蹴り出し、ノーサイド(試合終了)となつた。

小松節夫監督(52歳)は「相手の主力選手に仕事をさせず、モールを組ませないよう粘り強くティフエンスできたことが大きい。また、攻守ともに1対1で勝負する場面にも勝てた。こうした良い面を次の試合でも出せるよう、第2戦に向けて、しつかり取り組みたい」と話した。

